

# 江北の四季

令和2年  
6月11日  
第11号



ヒベリカム(左も)



○春はあけぼの。とくれば、清少納言の『枕草子』ですね。中学校の教科書に出てきます。「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。」よく覚えていても、この辺までです。では、夏はどう言っているのでしょうか。「夏は夜。」と言っています。続いて「月のころはさらなり、闇もなほ、

蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光て行くもをかし。」電気の明かりの無い平安時代の夜です。コロナで自粛している期間は「空がきれいになった。星が見えるようになった。」というニュースもありましたが、そんなものは比較にもなりません。夜は暗いのです。特に家の中は本当にくらくらいのです。夏の夜、お月様に照らされて光景はさぞや幻想的だったことでしょう。お月様が登っていないときに蛍が群れ飛んでいる光景は素晴らしい感じがしたでしょう。また、それほど飛んでいなくても、蛍が一匹二匹とほのかに光って飛んでいるのは趣があったことでしょう。



雨に似合う紫陽花



我が家の東側には川が流れていてこの時期になると蛍が出てきます。今年は5月の末頃から出てきています。毎晩のように見に出ています。いつも5〜6匹飛んできます。私が子供の頃、子供たちは町内を夜番に廻っていて、拍子木をたたきながら「火の用心」と言い歩いていました。この時期はそれがいつの間にか蛍狩りに変わってることがありました。その頃は小さなヘイケボタルでした。日本の高度成長と共に川は汚れ、蛍は残念ながら消滅してしまいました。



ヤマアジサイが愛らしい



ギボウシに花が咲き出しました

時は移り下水道の整備と共に川が復活してくると、長浜北小の近くの川でゲンジボタルの幼虫が放流がされ、その一部が巡り巡って川下の我が家の東側の川にたどり着いたようです。町内でも蛍が出るのはここだけです。町内の川で我が家の東側だけは、両側が土手で草わらにしているからです。我が家と川の間の道には除草剤をまかず、また、草刈りもこの時季はあえてせず、川側を大草わらにしているのです。自然を残すというのは大変です。



フェイジョア(秋の果実がおいしい)

ゲンジボタルの名の由来は、紫式部の『源氏物語』に登場する光源氏に由来し、ヘイケボタルは源氏に対する平家という意味でつけられたということですが、清少納言と紫式部は同時代の人なので、少なくとも平安時代までは蛍に種類は無く、すべて蛍と呼ばれていたのでしょうか。



ダリアも咲き出しました

六月十日からは、第二十六候、芒種、次候、腐草為螢(くされたるくさほたるとなる)です。



カラーとアマリリス



これもアマリリス

○いよいよ梅雨入りです。恵みの雨を受けて草も木も、そして野菜もすくすく成長するときです。カマキリや蛍も出て賑やかになってきました。我が家の小さなビワの木も実をつけています。湿度も温度も高くなって空気は重くなりましたが、庭に出ると、紫陽花や花菖蒲が雨に濡れて美しいです。



枇杷



不明(分かれば教えて)

清少納言は「夏は夜。月のころは……：ほのかにうち光て行くもをかし。」の最後は「雨など降るもをかし。」と結んでいきます。雨が降ると、月は見えぬ蛍も見えず、夏の夜は真っ暗だったはずですが、それも「をかし」と言っています。家の内も外も暗い雨が降る夜は、雨の音や、こもる湿度でさえ楽しんでいたのでしょうか。

タチアオイとギガンジウムが背比べすると



このギガンジウムは高さ約3m  
ややギガンジウムが優勢か、なあ。

立葵は梅雨の始まり頃咲いて、てっぺんまで花が咲き登ると梅雨が明けると言われますが、今年は5月末頃から咲き出しています。このまま行くと梅雨が明けるまでに花が終わりそうです。



○この芽が出ているサツマイモはシルクスweetという品種で、食べきれずに忘れ置いたものです。でも、このサツマイモ、何かおかしくありませんか。ジャガイモなら納得するのですが。



トリトマ



色の濃いホタルブクロ



ナルコユリとサツキ

ジャガイモとサツマイモ、似ていますがジャガイモは茎で、サツマイモは根です。ジャガイモは地下茎の一種で、養分を多量にたくわえて肥大したものです。茎ですから、ここから芽や葉や花茎が出てきます。一方、サツマイモは根が養分を多量に蓄えて、肥大したもので、首にあたる部分に短くつまった茎があり、ここから発芽するのが普通です。グリアも同じです。でもこのサツマイモは……？？？。



ウスベニアオイ

